

イザヤ書 58 : 6~8

エフェソの信徒への手紙 4 : 28

「盗む者から与える者へ」(第六戒)

(ハイデルベルク信仰問答 十戒について 問 110~111)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】詩編 34 : 6~9

【讚美歌】24「たたえよ、主の民」

【詩編交読】詩編 51 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55 : 7「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】211「あさかぜしずかにふきて」

【祈祷】天の父なる神さま

今朝も、わたしたちに新しい命、新しい朝、新しい主の日を備えてくださり、一人一人の名前を呼んで、この礼拝に招いてくださったことを、心から感謝いたします。

これから共に、聖書の御言葉を聞きます。聖霊なる神さまが、語る者、聞く者に豊かに働いてくださり、わたしたちの目を、耳を、心を開いてください。そして、御言葉を通して、あなたの恵みの御心を、深く悟ることが出来るよう導いて下さい。この礼拝の中心に、生きておられる復活のイエスさまがいて下さり、豊かな交わりに与かって、わたしたちの信仰がますます力強く励まされますように。そして、聖霊によって新しくされ、また新しい一週間を、神さまの御心に従って歩む者とならせて下さい。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【聖書】イザヤ書 58 : 6~8

エフェソの信徒への手紙 4 : 28

【説教】「盗む者から与える者へ」

<盗んではならない>

主日礼拝では、『ハイデルベルク信仰問答』から十戒について、その戒め一つ一つの御言葉を聞いています。

今日は、「第八戒 盗んではならない」という戒めです。盗んではならない。何かを盗んだことはありますか？ いや、そんな悪いことはしたことは絶対したことがない、という方もいれば、もしかすると子どもの頃の出来心や、過去の過ちを、チクリと思い出す方がいるかも知れません。

盗むとは、他人のものをこっそりと奪うこと。人知れず取ることです。この「盗んではならない」という戒めもまた、「殺してはならない」という戒めのように、道徳的、倫理的に、どの世界でも、どの時代でも、守って当たり前のことであると受け止められています。

でも十戒は、神さまが与えてくださった戒めであり、神さまが下さった御言葉ですから、わたしたちは、やはりここでも、神さまとわたしたちとの関係の中で、この第八戒の「盗んではならない」という御言葉を聞かなければなりません。

思い起こせば「十戒」は、神さまのこのような御言葉から始まりました。「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」。

まことの唯一の神さまが、わたしたちはあなたの主だ。あなたの神だ、と言ってくれる。わたしの主人は神さまであり、わたしは神さまのものである。このことが、十戒のすべての大前提となっています。

第六戒は「殺してはならない」という戒めでしたが、その大前提は、わたしたちの命は神さまのものである、ということです。ですから、自分の命であれ、他人の命であれ、それを殺すことは、神さまが所有しておられる命を奪うことになるので、殺してはなりません。

また、第七戒は「姦淫してはならない」という戒めでした。その大前提は、わたしたちの体は神さまのものであり、また、わたしたちの関係は、神さまが与えて下さるものである、ということです。ですから、姦淫することは、ただ相手を裏切るということだけではなくて、神さまをも裏切る行為であり、また、神さまのものである自分の体を汚すこととなります。

だから、姦淫してはならない。与えられた関係を重んじ、また、神さまのものであるあなたの体を、罪に汚さず、清く保ちなさい、と命じられるのです

同じように、今日の第八戒「盗んではならない」も、わたしたちの生きるために必要なもの、生活、人生は、すべて神さまから与えられたものである、ということがその中心にあります。言い換えれば、わたしの持っているものも、他人が持っているものも、神さまからいただいたものであり、本来はすべて、神さまのものなのです。

そうであるならば、他人のものを盗むことは、神さまのものを盗むことと同じです。だから、わたしたちは、盗んではならないのです。

#### <人を盗むこと>

ところで、この「盗んではならない」という戒めにおいて、一体何を盗むのかというと、わたしたちは普通、物とかお金とか、人の所有物を盗ることだと思ってしまうのでしょうか。

でも、旧約聖書の十戒における「盗んではならない」という戒めは、物を盗むことの他に、本来は人を盗むこと、つまり、誘拐を禁止するものであったと考えられています。

誘拐は、自分の利益のために、人を連れ去ってきて、まるでモノのように、売ったり、買ったり、奴隷にしたりするものです。そのような誘拐は、その人自身から、生活や、家族や、人生を奪い、自由も、尊厳も奪います。

ですから、このような人を盗む行為は、死刑となる大変重い罪だったのです。

旧約聖書の時代に、この十戒を与えられたイスラエルの民は、かつては自分たち自身が、エジプトの国で奴隷とされ、生活や人生を支配され、自由を奪われ、労働力を搾取され、苦しみに喘ぐ経験をしていました。

しかし、神さまが、そんな彼らを奴隷から解放してくださった。自由と、人として生きる権利と、尊厳とを与えてくださったのです。

そのような恵みをいただいたからこそ、自分たちもまた、他の人の自由や尊厳を、奪ったり盗んだりするようなことをしてはならない、と厳しく教えられているのです。

一人の人間が、生きていくにあたり、神さまはその人に、尊重されるべき人格と、自由とを与え、そして生きるために必要なすべてのものを、恵みによって備えて下さいます。

そのように、神さまが愛して、恵みを注いで、すべてを与えて生かしておられる、一人の人間から、誰も、何も、奪ったり、盗んだりしてはならないのです。

<神さまから与えられた>

わたしたちに必要なものは、すべて神さまから与えられます。

イエスさまの、このような御言葉があります。「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存知なのだ」(マタイ 6:8)。また、『何を食べようか』『何を飲もうか』と言って、思い悩むな。…あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存知である」(マタイ 6:31~32) と。

わたしたちは、天の父なる神さまのものなのですから、神さまは、わたしたちに必要なものを、十分によくご存じです。ですから、神さまは、わたしたちを生かし、養い、守るために、必要なすべてを十分に備えてくださると、心から信頼して、安心して良いのです。

そして与えられたものを、感謝をもって受け取り、それを大切に用いるべきなのです。

それなのに、盗みを考えるということは、神さまから与えられているものに、満足していないということ、不平不満を持っているということです。また、神さまが十分に満たして下さることを、信じていないということです。

さらに、人から奪って多くを自分のものにしようとすることは、他人に与えられた神さまの恵みを奪い取り、その人の生活や人生を破壊しようとする行為です。

これは、神さまの御心に背き、自分の欲望に従っていく、まことに自己中心的な、自分勝手なことなのです。

しかし、中には、『レ・ミゼラブル』のような状況を考える人がいるかも知れません。

貧しくて、あまりに貧しくて、生きるために、あるいは誰かを生かすために、パンを盗まざるを得なかった、という人もいるのではないだろうか。神さまは、そういう貧しい人たちに、必要を十分に満たして下さらなかったのだろうか、と。

でも、わたしたちは、そのような方たちのことを、そんな他人事のようにして見ているのでしょうか。それは、本当に神さまのせいなのでしょうか。

わたしたちは、その貧しさの裏に、他の人間や、共同体や、国などによる、搾取や、不正や、富の独占がないかということも、考えなければならぬのではないのでしょうか。それなのに、自分たちは、ある程度の安全圏の中において、困っている人たちをそこから眺めている、ということはないのでしょうか。本当は、わたしたちが、その人たちのために、なすべきこと、できることを、していないのではないのでしょうか。

<禁じていること>

今日の『ハイデルベルク信仰問答』の問 110 には、このようにありました。

「問 110 第八戒で、神は何を禁じておられますか。」

「答 神は権威者が罰するような盗みや略奪を禁じておられるのみならず、暴力によって、または不正な重り、物差し、升、商品、貨幣、利息のような合法的な見せかけによって、あるいは神に禁じられている何らかの手段によって、わたしたちが自分の隣人の財産を自らのものにしようとするあらゆる邪悪な行為また企てをも、盗みと呼ばれるのです。さらに、あらゆる食欲や神の賜物の不必要な浪費も禁じておられます。」

第八戒で禁じられていることは、目に見える盗みや略奪だけではありません。

不正を働くこと。合法的な見せかけによって、つまり、法には触れないけれども、隣人の財産を自らのものにしようとする、自分が利益を多く得るための、行為や、企て。そのような考え。それもまた、盗みであると言っています。

このような不正や搾取の行為や企てがあるところには、必ず奪われる人々、損をさせられる人々、貧しくされる人々がいます。

さらに、第八戒は厳しいことに、「あらゆる食欲や神の賜物の不必要な浪費も禁じておられる」とあります。

わたしたちが、自分を更に満たしたいと願うこと。さらには、神の賜物、つまり与えられているものを、不必要に浪費すること。無駄にすること。虚しいことに使うこと。これもまた、盗みである、と言うのです。

わたしたちは、神さまから、自分に与えられたものだからといって、それを自分のものとして、好き勝手にしてよいではありません。

わたしたちが持っているもの、与えられているものは、やはり、与えてくださった神さまのもの。神さまからの預かりものなのです。

ですから、神さまが、わたしに必要だと与えてくださったものを、わたしたちは感謝して受け取り、大切に用いなければなりません。

ときに、わたしたちは、生きるための必要を満たされた上で、それ以上のものを手にすることがあるかも知れません。でもそれは、ラッキーなのではありません。むしろ、多く与えられている人は、それを神さまからの預かりものとして、正しく管理し、神さまのため、隣人のために用いる使命を与えられているのです。

<命じられていること>

恵みを与えられているわたしたちが、その恵みにふさわしく生きるべく求められていることは、神さまを愛すること、そして、隣人を愛すること、隣人を生かすことです。

わたしの命も、体も、生活も、糧も、財産も、能力も、時間も、神さまが与えてくださったものはすべて、神さまを愛するため、そして、自分のように隣人を愛するために与えられているのです。

ですから、『ハイデルベルク信仰問答』は、問 110 で「第八戒で、神は何を禁じておられますか」と問うた後に、問 111 で「それでは、この戒めで、神は何をあなたに命じておられるのですか」と問うています。「盗んではならない」との戒めにおいて、禁止されていることと、神さまがわたしたちに求めておられることを指し示しているのです。

問 111 はこうありました。「それでは、この戒めで、神は何をあなたに命じておられるのですか。」「答 わたしが、自分になしうる限り、わたしの隣人の利益を促進し、わたしが人にしてもらいたいと思うことをその人に対しても行い、わたしが誠実に働いて、困窮の中にいる貧しい人々を助けることです。」

神さまが、「盗んではならない」との戒めで求めておられることは、わたしたちが、ただ盗まない、不正をしない、浪費をしない、というだけでなく。隣人から奪うことをしない、というだけでなく。むしろ、隣人の利益になる行いをする。隣人を助けること。与えること。生かすこと。このことをこそ、求めておられるのです。

そうであるなら、わたしたちが、人のものを盗んだり奪ったりしていなくても。不正や搾取をしていなくても。もし、わたしが隣人のために何もせず、自分がしてもらいたいと思うことを、その人に対して行わないなら。困窮の中にいる、貧しい人々がいることを知っただけで、助けようとしなければならぬ。自分の満足だけを覚えて、隣人が満たされることを考えていないなら。隣人に与えること、隣人を生かすことをしないなら。それもまた、盗んでいるに等しいのだと、言われているのではないのでしょうか。

…それなら、わたしたちの中に、盗んでいないものなど、本当にいるのでしょうか。

わたしたちは、この戒めを与えられた時に、自分を見つめざるを得なくなります。

わたしは、与えられているものの、良い管理者でしょうか。与えられたものでは足りないと、不平不満をもっていないのでしょうか。神さまからの預かりものを、ムダにしていないのでしょうか。隣人を生かすために用いたことがあるのでしょうか。貧しい人々に、無関心ではないのでしょうか。本当に、神さまに喜ばれる使い方をしているのでしょうか。

神さまは、与えられたもので楽しんではいられないとか、何でも我慢しなければならないとか、そのようにおっしゃっているわけではありません。

でも神さまは、わたしの隣で、隣人が苦しんでいるのなら、あなたが行って、助けなさいと言われるのです。あなたには、このわたしがすべてを与えているのだから、あなたは助けることができます。助けるために必要なものも、与えている、と。

このように命じられ、遣わされるのは、わたしたちが、何も持たない者ではなくて、神さまからの恵みを、溢れるほどに持っている者だからなのです。

#### <新しい生き方>

今日のエフェソの信徒への手紙も、まさにそのことが語られていました。4:28にはこうありました。「盗みを働いていた者は、今からは盗んではいけません。むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得、困っている人々に分け与えるようにしなさい。」

この言葉は、イエスさまが十字架の死によって罪を赦して下さったことを信じて、教会のメンバーになったものたちに語られています。その中に、過去に過ちを犯した者たちもいたのかも知れません。

しかし、盗んでいた者は、今からは盗んではならない、と言われます。これまでは、人に与えられた恵みをむさぼり、盗み、奪い取るような歩みだった。それは、すべての必要を与え、満たして下さる神さまを知らなかったからです。

でも、これからは盗むことなく、むしろ、労苦して自分の手で正当な収入を得なさい、というのです。それは、誰も傷つけたり、損ねたりすることなく、正しい方法で得た収入ということです。そのような収入こそ、神さまが恵みによって得させて下さるものです。

そしてさらに、それを困っている人々に分け与えるように。隣人を愛するために。恵みを分かち合うために、用いなさいというのです。

盗む者から、分け与える者へ。それは、180° 変わった、まったく新しい生き方です。

自己中心的に、自分のことばかり見つめ、自分の内側を向いていた者が。神さまの方を見つめるようになり、神さまの方を向くようになる。そして、自分の外側に目が向き、隣人のことをも見つめるようになっていくのです。

でも、どうやってわたしたちは、そんな方向転換が出来るのでしょうか。どうやってわたしたちは、盗む者から、与える者になることが出来るのでしょうか。

わたしたちを 180° 方向転換させ、新しくして下さるのは、神の御子イエスさまです。

そのために、まずイエスさまが、わたしたちを生かすために、ご自分のすべてを与え尽くして下さいました。

イエスさまは、自己中心的な歩みをして、隣人から奪い、神さまから奪い、貪欲の奴隷、罪の奴隷となっていたわたしたちを解放するために、ご自分の命を、体を、ご生涯を、十字架の上で差し出して下さったのです。

驚くべきことに、神さまは、まず神の御子イエスさまを、この罪人のわたしに、何の見返りもなく与えて下さったのです。

そして、イエスさまの十字架と復活の恵みを、わたしのものとして与えて下さり、罪の赦しと新しい命を、わたしのものとして与えて下さったのです。

わたしたちは、こうして今や、御子イエスさまを持っている。神さまの救いを持っている。このような神さまを、わたしの神として、持っているのです。

そうです。神さまは、わたしに向かって言われました。「わたしは主、あなたの神」。この方は、「わたしの」神さまです。そう、神さまご自身が、おっしゃってくださったのです。

ですから、わたしのすべては、この方から来ます。わたしの恵みは尽きることがないし、わたしから恵みが奪われることもありません。イエスさまは、どのようなときも、わたしから離れることはないし、神さまは、いつでも、共にいてくださいます。

このような神さまを持っているわたしですから。このような神さまから、すべてを豊かにいただいているわたしですから。わたしも今や、隣人に与えることが出来る者とされたのです。神さまからいただいた恵みを、分かち合うことができるのです。

自分のために、取っておく必要はありません。神さまが備えてくださるからです。恵みを分け与えて、自分の分が無くなることはありません。神さまの恵みは、限りないからです。

むしろ、神さまの恵みを隣人と分かち合うことは、神さまへの感謝を分かち合うことであり、そこには、神さまへの賛美の声がますます増し加わっていくでしょう。

それこそ、神さまがお喜びになることです。

わたしたち自身は、何も持っていません。はじめから、終わりまで、何も持っていないのです。でも、わたしたちの神さまが、すべてを持っておられる。わたしたちのイエスさまが、すべてを与えてくださる。

この恵みの中にあって、神さまから受けることしか出来なかったわたしたちは、今や、新しくされて、受けたものを与える生き方へ、導かれているのです。

わたしが、イエスさまのものであり、また、イエスさまが、わたしのものであるということさえ出来る、その驚くべき恵みを感謝して。わたしたちは、勇気を出して、一步を踏み出して、神さまの愛を、恵みを、賜物を、隣人と分かち合っていきたいのです。

#### 【お祈り】 天の父なる神さま

わたしたちのすべては、あなたから与えられているものです。何より、あなたは、わたしたちを生かすために、貴い御子イエスさまの命を与えてくださいました。

そうして、御子イエスさまの救いの恵みを受け、新しく生かされた者として、わたしたちもまた、隣人を生かす者、隣人に神さまの恵みを分け与える者とならせてください。

どうか、自分勝手な思いに支配されませんように。貧しい、困難にある人々に、無関心になることはありませんように。命も、体も、生きる糧も、時間も、賜物も、あなたから与えられているすべてのものに感謝し、御心に従って用いることができますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

【讚美歌】 512 「主よ献げます」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】 天の父なる神さま

今、御言葉を通して、言い尽くせない、大きな恵みを与えられていること。イエスさまを与えられていること。罪を赦され、神さまの御心に生きる新しい命を与えられていることを、改めて示され、感謝いたします。

今日ここに集うことのできなかつた、愛する兄弟姉妹にも、どうか聖霊なる神さまが御言葉を届けて下さり、イエスさまの救いの恵みに溢れ、共にこの礼拝の祝福に与ることが出来ますように。そして、与えられた日々を、主にある平安と喜びの内に歩むことが出来るよう、導いて下さい。体の弱さ、老いを覚えているものを、慰め、癒して下さい。労苦や、心の苦しみを負っている者を、どうか、励まし、助けて下さい。そして、わたしたちが一つの体として、共に祈り合い、共に信仰の歩みをなしていくことが出来ますように。

また、この礼拝に、新しく招かれている方たちを覚えます。どうか、御言葉を通して、まことの神であるあなたを知ることが出来ますように。救い主イエスさまと出会うことが出来ますように。祝福を豊かに注いで下さり、聖霊なる神さまが、まことの信仰へと導いて下さいますようと、祈り願います。そして、あなたを神として生きる、その幸い、平安へと招いて下さいますように。

神さま、世界において、傷つき、悲しみ、嘆いている人々のことを覚えます。どうか、あなたの御手を伸ばし、助けを、癒しを、お与えください。特に、戦争の中にある国々を覚えます。それぞれの正しさを主張し、あなたのものである貴い一人一人の命を奪い合っています。どうか、お赦しください。憐れんでください。そして、平和へと向かうための知恵を、国々に、人々に、お与えください。

わたしたちもまた、祈り続けていくことが出来ますように。あなたの御心を、この地にあつて、行うことが出来ますように。

神さま、この地上に立てられた、御子イエスさまの体なる教会が、力強く福音を宣べ伝え、神さまの御心を告げ知らせ、この地のために、執り成し祈っていくことが出来ますように。

救いの恵みを受けた群れが、隣人にあなたの愛を証しし、まことの平和を示していくことが出来ますように、聖霊を注ぎ、御力を与えてください。

このお祈りを、主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 29 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、  
あなたがた一同と共にあるように。アーメン